



# 和 ～心をつなぐ～

令和6年10月1日

第4号



## 命の大切さ

今回はある中学生の作文から「命の大切さ」について考えてもらいました。【※ 裏面：放送内容】

### ☆ 1年生 ☆

- 作者はK君に「自分を前に進ませてくれてありがとう」という思いがあと感じました。命とどう向き合うか改めて考えさせられました。自分の命も他人の命も大切にしていきたいです。
- 何事にも諦めなかつたK君のように、最後まで決して諦めることなく、挑戦していきたい。
- どんな人も同じ人間なので、偏見なくどの人も同じように接していきたい。
- K君がいたから、最後まで諦めないで頑張れたと思う。自分の夢に向かって諦めないで最後まで頑張ることを忘れないようにしたい。

### ☆ 2年生 ☆

- K君のように前向きに自信をもって考えられるような人になりたいです。大人になつても落ち込むことがあると思うけど、諦めずに頑張りたい。
- 作者は自分のことを弱いと言っていたので、K君のおかげで病気に勝ち、強くなれたからだと思う。私もK君のように夢に向かうとき、挫折しても諦めず、後悔のないよう、自分にできることを全うして、頑張りたいと思った。
- 命の重さ、決して諦めず頑張る強さ、そして偏見や好奇心で人を見てはいけないということをお大切にしたいです。自分の夢に向かってK君のように夢に対して頑張れる人になりたいです。

### ☆ 3年生 ☆

- K君が軽くない命の重さや病気でも最後まで諦めないことを教えてくれたから、病気で見た目が違つても同じ人間だから、偏見や好奇心で人を見ないようにしたい。
- 自分は重い病気をもっているわけではないけれど、病気を治すために頑張ろうと思いました。
- 生きる勇気をくれたK君に感謝し、死を弔う気持ちでこの作文を書いたのかなと思った。
- 病気でも信じられる人がいると、生きようとする気持ちが伝わつた。
- 自分も病気をもっているのに、友達を励まし勇気を与え続けたK君はすごいと思った。K君が最後まで作者に笑顔でいてくれたことにありがとうと言いたかつたと思う。

仕切りのカーテンがサーッと開いて「Kです」と、隣のベットから顔を上げてニコニコしていたK君と初めて出逢った。印象は、眼がキラキラと輝いていてイケメンで格好良いと思った。

僕は中学1年の時に病気で東京の大学病院に入院した。そんな時、明るく声をかけてくれたのがK君だった。

一日の治療が終わり体調の良い時は遅くまで冗談ばかり言って過ごしていた。何でも話せる仲になっていたが、決してお互いの病名は聞かない。病状の事などにふれない。それが病気に勝つために必死で闘っている仲間に対するルールだ。時々廊下に出ると驚く。障害のある子、髪が抜けている子。でもどの子の顔にも暗さなど少しもない。病棟では好奇の視線で見える人は一人もいない。でも病棟から一步外にでた時はどうだろうと考えてしまう。

ある時、K君が「祐輝、地下の売店に行こう。」と言った。病棟から出て大勢の人がいる外来を歩いていかななくてはならない。僕はジロジロとみられるのが嫌だった。堂々と歩いていったK君を僕はあわてて追いかけていった。

病棟の患者は守られているが病棟から一步外に出たらそうではない。好奇の目で見られ、顔をそむける人もいる。「皆同じ人間なのだから恥じる事ないよ」K君は僕にそう言いたくて売店に連れてきたのだと思った。軽くない命の重さ、だからみんな頑張れるのだと思う。退院の日、K君に「ありがとう」そう言うのがやっとだった。必ず病気を克服出来ると信じていたから再会を約束した。

僕が退院した後もK君の入院生活は続いていた。僕が外来で行った時、知っている看護師さんから彼は決して諦めずに病気と闘っていると聞いた。ある検査で病院に行くので「逢えるかな」とメールを送ると「逢えるよ」と短い返事が返ってきた。久しぶりに逢うのでドキドキして待っていると車いすに乗ったK君が近づいてきた。彼は別人のように姿が変わっていた。それでも眼はキラキラと輝いていた。僕と逢えた事を喜んでくれていた。ふと僕は、もう二度とK君に逢えない事を感じた。

夢に向かって生きるために、何度も病気と闘って、その度に最後まで諦めずに頑張っていたK君。その彼が天国に旅立ってしまった。僕は彼にありがとうと言いたい。

僕は弱いからK君みたく頑張れないかもしれないけれど、命の重さ・決して諦めず頑張る強さ・そして偏見や好奇心で人を見てはいけない事を忘れはしない。

#### ☆ 保護者の方からの感想 ☆ 7月「普通」

- ・ 最近のニュースを見ていると、多様性の範疇を超え、相手に不快や迷惑をかける事由も目にします。「普通」を否定せず、社会から逸脱しない優しい世界になってほしいと思います。
- ・ 杓子定規に物事を見ず、相手を理解しようとするのが大切だと思います。知ろうとする、理解しようとするのが人権尊重の一步につながると思います。
- ・ 人によって考え方は様々だけど、どの意見も受け入れられ、差別や偏見のない社会にしていきたいです。

(紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。)